



私たち、とことんやります！

ONE TEAM REHABILITATION

回復期リハビリテーション病棟
パンフレット



医療法人 田中会

武蔵ヶ丘病院

〒861-8003 熊本市北区楠 7-15-1

TEL 096-339-1161 (代表) FAX 096-339-4717 (代表)

● 患者紹介・入院相談に関するお問い合わせ

096-342-5330 (地域連携室)

● WEB・SNS



武蔵ヶ丘病院
ホームページ



回リハ病棟
Instagram



リハビリテーション部
Instagram

武蔵ヶ丘病院 関連事業所

- 武蔵ヶ丘居宅介護支援事業所 TEL.096-339-1165
- 武蔵ヶ丘訪問看護ステーション TEL.096-342-5302
- 武蔵ヶ丘訪問リハビリテーション TEL.080-2743-1590
- 武蔵ヶ丘訪問介護事業所 TEL.096-342-5312
- 武蔵ヶ丘看護小規模多機能ホームむさし TEL.096-339-5540
- 武蔵ヶ丘通所リハビリテーション TEL.096-342-5636
- 短時間通所リハビリ Green Fitness TEL.096-342-5134



医療法人田中会 関連施設

- 介護老人保健施設 おおつかの郷
菊池郡大津町陣内 1165 TEL.096-294-1500
- 大津陣内メディケアセンター
菊池郡大津町陣内 1167-5 TEL.096-294-5400
- くまもと令和クリニック
熊本市中央区新市街 7-17 TEL.096-354-0055
- 熊本市高齢者支援センターささえりあ武蔵塚
熊本市北区武蔵ヶ丘 1-9-1 1F TEL.096-339-8130
- メディカルフィットネス SINKA GYM (シンカジム)
熊本市中央区新市街 7-17 4F TEL.096-328-3200

医療法人 田中会

武蔵ヶ丘病院

とことん充実！ 「挑戦」を支えるスタッフと環境

回復期リハビリテーション病棟（60床）では、リハビリテーション科専門医を中心に、充実した人員体制と環境下で、質の高いリハビリテーションを提供しています。

POINT 1 3名のリハビリテーション科専門医を中心とした豊富な人員体制

リハビリテーション科専門医は、急性期から生活期まで、様々な障害を持つ患者の機能回復や社会復帰を医学的に支援するスペシャリストです。医学的管理を行いつつ、多職種連携のリーダーとなり、治療方針の決定・システム作りを行います。

リハ医が「毎週」「全症例」リハ医参加のミーティングで進捗状況の確認を行っています。

※) 疾患・症状によって、総合診療科等の医師が主治医となる場合があります



医師 千手 佑樹

リハビリテーション科部長、地域連携室長を務める。

【認定資格】医学博士／日本リハビリテーション医学会リハビリテーション科専門医・指導医／日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士／心臓リハビリテーション指導士



医師 小山 雄二郎

骨折などの運動器疾患を中心に診療を行う。

【認定資格】日本整形外科学会専門医・指導医／日本整形外科学会運動器リハビリテーション認定医／日本リハビリテーション学会専門医／日本義肢装具学会専門医



医師 田中 慎一郎

医療法人田中会 副理事長、MCRCセンター長、介護老人保健施設 おおつかの郷施設長を務める。

【認定資格】日本リハビリテーション医学会リハビリテーション科専門医／障がい者スポーツドクター

多数の専門職が在籍し、充実した訓練・離床・ケアを実現

薬剤師	2名	看護職 (Ns) ※1	26名	理学療法士 (PT)	30名
管理栄養士	2名	介護職 (CW) ※2	11名	作業療法士 (OT)	12名
社会福祉士 (MSW)	2名	歯科衛生士	1名	言語聴覚士 (ST)	7名

※1) 回復期リハ看護認定看護師 3名を含む看護師、准看護師
※2) 介護福祉士、介護士

(2025年4月時点)

POINT 2 リハビリが進む機能的で快適な環境

リハビリ室は、テニスコート約4面分の広さの明るく開放的な空間であり、最新かつ多数のリハビリ機器を備えています。

病棟もリハビリ室と同じフロアにある活動的環境で、スタッフ間の情報共有も行いやすく、病棟生活そのものを訓練の場とすることができます。



リハビリ室



病棟廊下

とことん連携！ リハ医 × 多職種プロジェクトチーム

回りハ病棟には7つのプロジェクトチームが存在し、そのすべてにおいてリハ医が中心となって、多職種ミーティングをそれぞれ毎月実施しており、システムの構築・改善を行うことで標準化された質の高いリハビリの提供を実現しています。

● せん妄対策チーム

せん妄の予防、早期発見、治療を目指したシステムの構築



● 排泄支援チーム

スムーズな排泄自立を目指したシステムの構築



● 摂食嚥下・栄養・薬剤チーム

食と薬を通して、治療効果とQOLを最大化するシステムの構築



● 医療安全チーム

転倒リスクを最小にしつつ、リハビリ効果を最大にするシステムの構築



● 活動調整チーム

活動と安全のバランスを最適な状態に管理するシステムの構築



● 退院支援チーム

スムーズかつ安全に療養生活へ移行するためのシステムの構築



● 運営チーム

各チームの提案を審議／議決、業務改善、労働環境調整など



プロジェクトチームは、医療安全、活動調整、退院支援、摂食嚥下・栄養・薬剤、排泄支援、せん妄対策に分かれており、それを統括する各職種代表者中心の運営チームが存在します。各チームには各部署から専門職が1名以上配置され、それぞれの専門知識を活かして、システム構築に取り組んでいます。

PICK UP!



● 医療安全チーム

自立度チェックシート

多職種で車椅子移乗や歩行などの動作能力評価、行動観察を行い、遅延なく安全に自立度を変更することができます。

PICK UP!



● 退院支援チーム

多職種カンファシート

目標を達成するための具体的な行動目標や現状に対するアセスメントなどを過不足なく、多職種で共有ができます。

PICK UP!



● 排泄支援チーム

尿道留置カテーテル 抜去フロー

尿路感染症防止、排尿自立を目指し、統一した手順で遅延なく安全に尿道留置カテーテルを抜去することができます。

PICK UP!



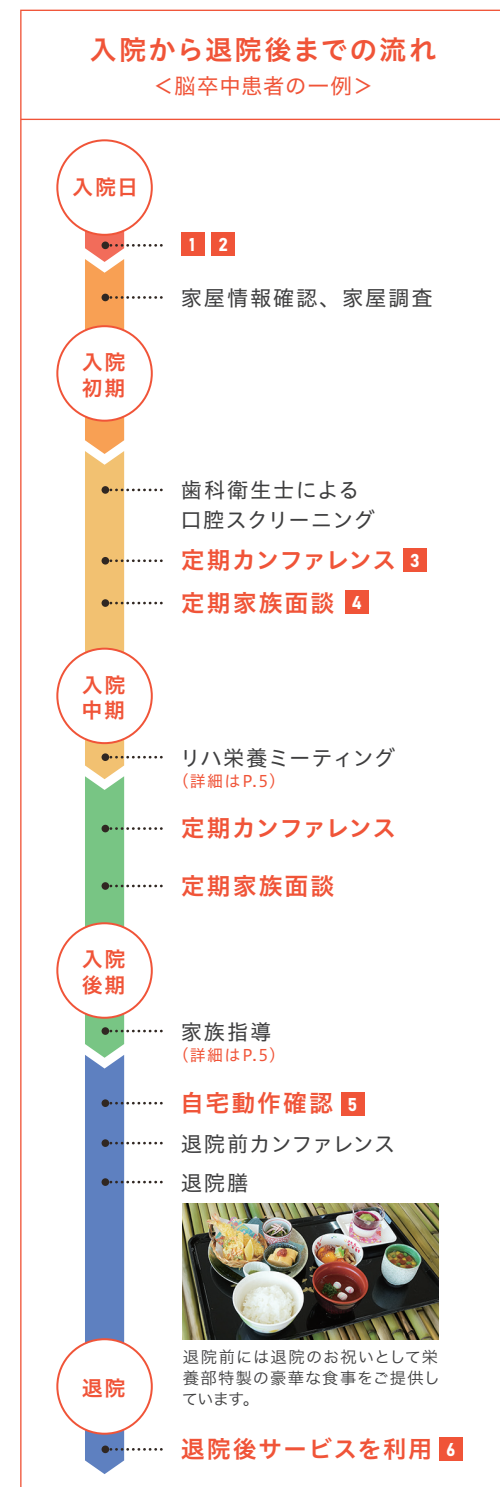
● 摂食嚥下・栄養・薬剤チーム

とりみサーバー

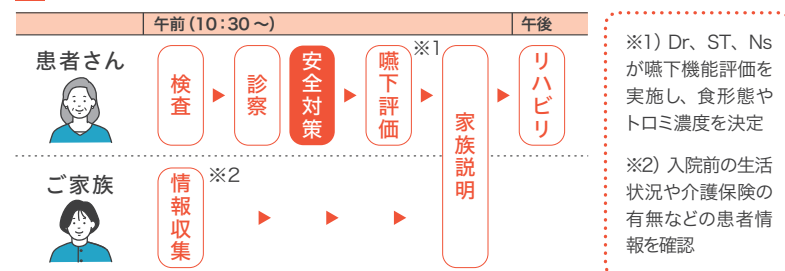
摂食嚥下障害の患者さんに対して、障害の程度に合わせたトロミ水を安全かつ効率的に提供することができます。

とことん支援！ 入院日から始まるフルサポート

患者さんが安全かつ安心してリハビリに取り組み、社会生活へ復帰できるよう、入院日から365日、多職種による充実したシームレスな支援を行います。



1 入院初日の流れ



2 安全対策

Dr、Ns、PT/OT が基本動作能力を評価しつつ、センサーなどの転倒予防策や安静度を決定します。毎週センサーカンファレンスを実施し、その見直しも行います。



3 定期カンファレンス

原則月1回開催し、多職種で治療計画を立案します。そのなかで職種毎に短期／長期目標を掲げ、その目標を達成するために具体的にやるべきことを決定します。



4 定期家族面談 (適宜本人同席)

原則月1回実施し、主治医を含めた多職種で進捗や目標などの説明を行います。面談直前にリハビリ見学を行い、実際の動作を見ていただくことも可能です。



5 自宅動作確認

退院前に患者さん同席で自宅を訪問し、手すりやベッドの設置位置などの最終確認や安全に生活ができるか一連の動作の確認を行います。



6 退院後に利用できるサービス (当法人運営)

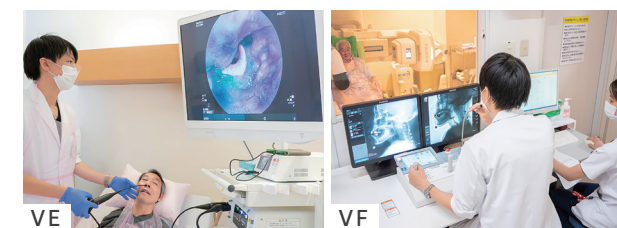
通所	外来リハビリ／通所リハビリ／短時間通所リハビリ「Green Fitness」
訪問など	訪問診療／看護／介護／リハビリ／看護小規模多機能ホームむさし

POINT1 臨床も全力でやります！～リハ医はみんなのリーダー～

リハ医は、医学的管理やリハビリに関する評価、治療を実施しつつ、チームの中核として多職種と共に訓練計画や目標設定を行い、介入効果を最大化します。

リハ医が行う検査・治療の一例

- 嚥下内視鏡検査 (VE) ・ 嚥下造影検査 (VF)
- VE・VFによる嚥下機能評価を実施します。



リハビリとは？

なおす

低下した機能をできる限り改善

補う・別の方法で実現する

元通りにならない場合、残存する障害に合わせた最適な新たな動作を獲得

- 装具・痙縮治療

下肢装具等の検討／適合を行い、筋肉の緊張をやわらげます。

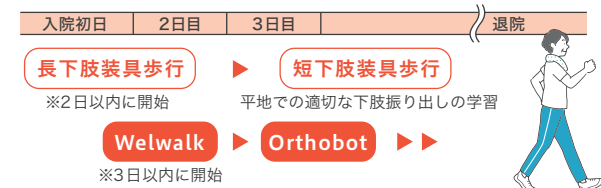


POINT2 できることを、もう一度！～未来を変える最先端リハビリ～

「自分らしく歩く」を目指した歩行リハビリ

身体機能（麻痺や疼痛など）の客観的な評価に基づき、先進機器や装具など補助具を用いて、歩行能力の改善を目指します。

2種類のロボットを活用した段階的な歩行練習の一例



例1 Welwalk

- 脳卒中片麻痺患者用の歩行訓練ロボット
- 適切なアシスト機能による難易度調整
 - 視覚や聴覚を併用したフィードバック機能



例2 Orthobot

- 長下肢装具装着型ロボット
- 歩行に合わせた膝関節の制御
 - 正しい歩行パターンの再学習

「自分らしく生きる」を目指した生活リハビリ

先進機器や動作訓練を通して、上肢／手指機能や日常生活動作の改善を目指します。また、運転、復職、家事などの再開に向けた評価や支援も行います。



例1 Meltz

- 手指運動麻痺用のロボット
- 本人がしたい運動を認識し、適切な運動補助
 - 手指機能向上と運動再学習

例2 運転支援

- 自動車運転復帰に向けた評価と訓練
- 神経心理学的検査による客観的評価
 - ドライブシミュレーターや実車による実践評価

「自分らしく食べる／伝える」を目指した嚥下／言語リハビリ

VE／VFによる客観的な評価に基づき、状態に合わせた食形態選定や嚥下訓練を行います。また、失語症や構音障害に対するコミュニケーション訓練や家族指導も実施します。



例1 Pathleader

- 筋力増強のための磁気刺激装置
- 嚥下に関わる筋肉の収縮を効率的に誘発
 - 痛みや不快感が少ない

例2 患者／家族指導資料

- 嚥下やコミュニケーションに関する徹底した患者／家族指導
- 入院初期～退院時まで適宜実施
 - 状態に合わせた資料を患者さんごとにオーダーメイドして配布

私たちは、院内に併設された武蔵ヶ丘臨床研究センター (MCRC) と協働し、エビデンスに基づいたプログラムを日々実践しています。

学術論文 35件 学会発表 112件 ※2020～2024年

POINT 3 リハビリはみんなでやろう！ ～多職種によるチームアプローチ～

病棟レクチャー



リハビリの時間内で訓練しているトイレや歩行などの日常生活動作を、実際の病棟生活でも行えるように、療法士からNs、CWに対して指導を行います。

院内チャット



業務用スマホのアプリを用いて、多職種でスムーズかつ確実に患者さんに関する情報共有を行います。病棟レクチャー動画の共有も可能です。

家族指導



入院後期を中心に、適宜すべての職種から介助の注意点などを直接ご家族に指導し、現状や退院後の生活を具体的に理解していただきます。

リハ栄養ミーティング／ミールラウンド



リハ医、管理栄養士、PT、STを中心に活動量に合わせた提供食事内容の見直しや、OTや調理師も加わっての摂取状況確認や食用品の調整を行います。

排尿ケアカンファレンス



排尿ケアチーム（リハ医、Ns、PT）が毎週、排尿障害患者の抽出、情報収集・評価、排尿自立に向けた計画策定を行い、排尿ケアの質向上をサポートします。

更衣スケジュール表



更衣の強化が必要な患者さんに対して、更衣に関する目標や注意事項などを記載したスケジュール表を掲示し、多職種と患者さんで共有します。

服薬自己管理評価



毎週Nsと薬剤師による服薬自己管理に向けた評価を行い、患者さんごとに最適な管理方法を提案し、適宜見直しを行います。

園芸活動



OT、Ns、CWらと共に屋外スペースで野菜や花を育てる作業を通して、ストレス軽減や運動能力向上を目指します。定期的に院内園芸新聞も発行しています。

病棟レクリエーション／誕生日会

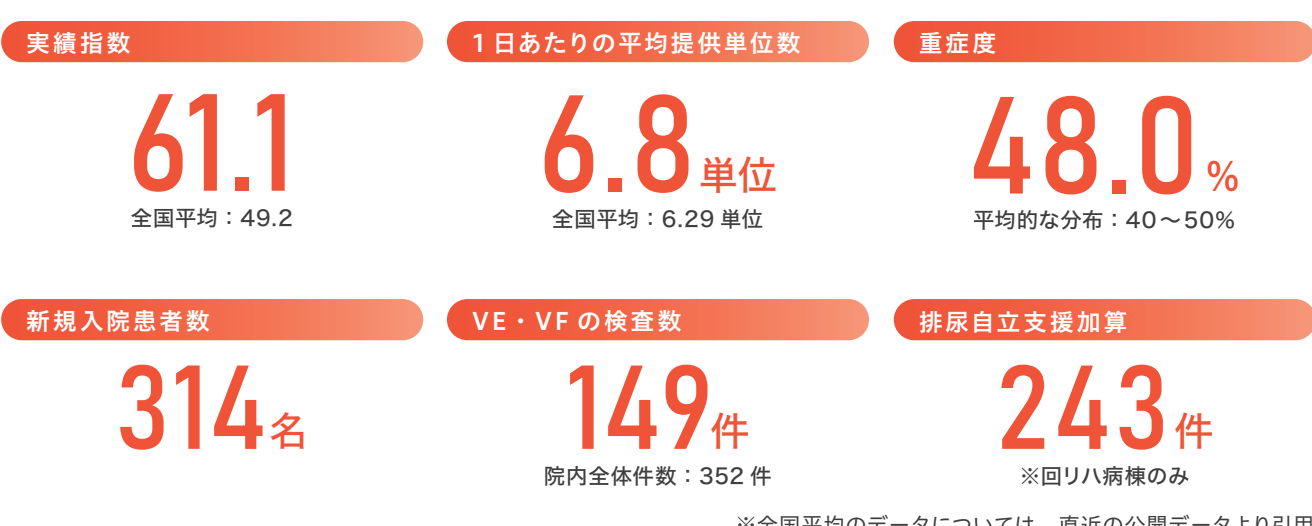
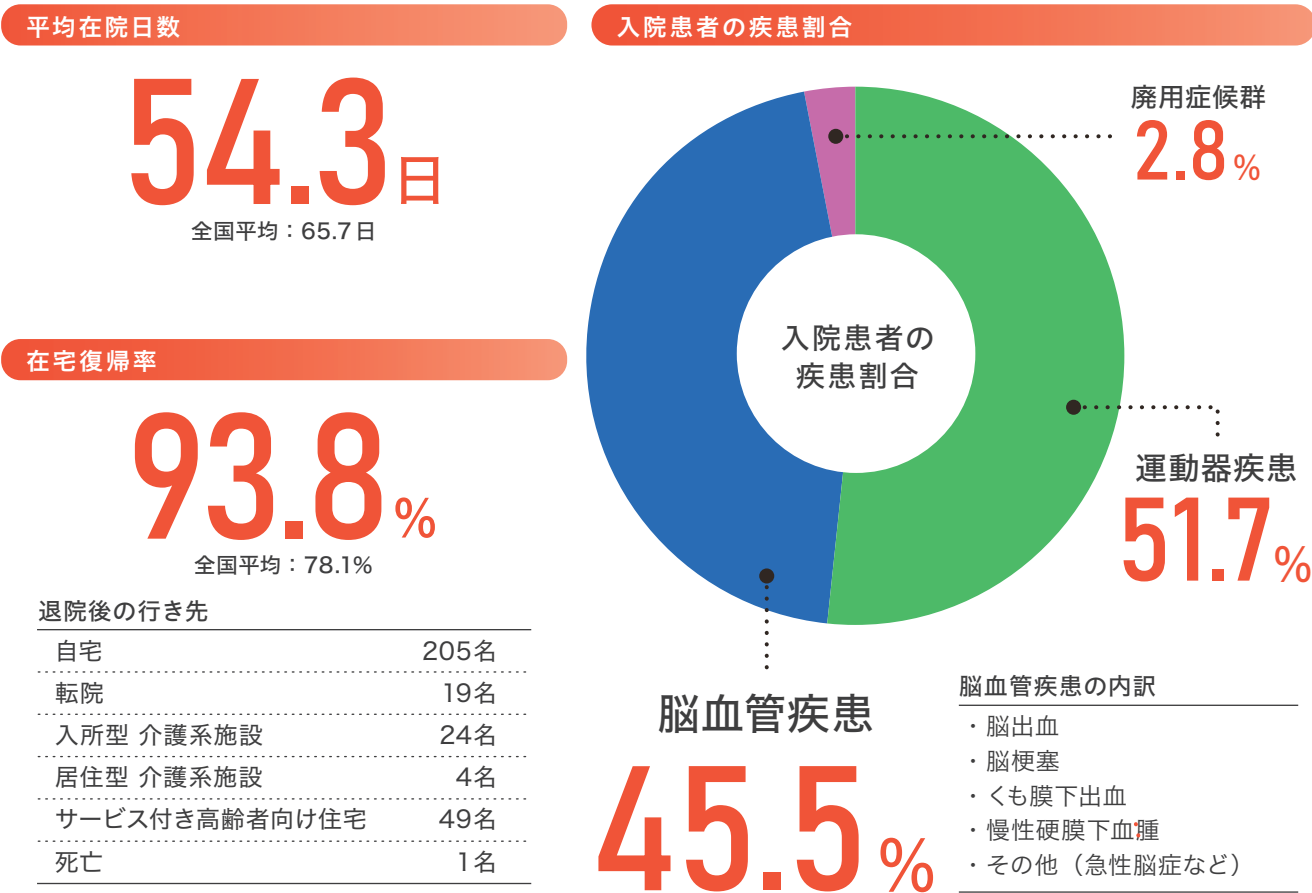


毎日CWを中心に歌やゲームなどのレクリエーションを実施し、職員や患者さん同士の交流を深めます。毎月誕生日会も開催してお祝いします。

とことん見える化！ 数字で見る、回りハ病棟の実績

(2024年度)

ここまで私たちの「ONE TEAM」での取り組みをお伝えしてきました。
その結果、全国平均と比較しても良好な実績を得られており、その一部をご紹介します。



※全国平均のデータについては、直近の公開データより引用